

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 20 日作成)

小委員会名	構造設計小委員会	主 査 名：小澤雄樹 就任年月：2020 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主 査 名：川口健一)
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2024 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>社会共有の資産となる持続可能な空間構造物を実現する上で、その設計を担う構造設計者の役割は近年ますます重要になってきている。一方、社会は変化のスピードを速め続けており、何を根拠に設計を進めれば良いのか、その拠り所は見えにくくなってきている現状がある。過去の優れた空間構造物の事例や、それを実現した構造設計者の創意工夫や設計思想について知ることは、それを見定める上で重要な一歩となるだろう。本小委員会は、これまでの活動を継続し、日本・アジアにおける優れた事例を収集して「世界の構造デザインガイドブックⅡ（日本・アジア）」をまとめると共に、関連するセミナーの開催等を通して、空間構造にまつわる構造設計技術を正しく継承し、発展させていくことを目的とする。</p> <p>初年度：「世界の構造デザインガイドブックⅡ（日本・アジア）」の編集方針の検討、事例収集及び原稿執筆。 2年度：「世界の構造デザインガイドブックⅡ（日本・アジア）」の原稿執筆及びまとめ。学会大会において、構造設計に関するPDを実施する。 3年度：「世界の構造デザインガイドブックⅡ（日本・アジア）」の出版と関連するセミナーの実施。 4年度：空間構造の構造設計に関する動向調査。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：小澤雄樹（芝浦工業大学） 幹事：喜多村淳（太陽工業株式会社）、松尾智恵（明星大学） 委員：今川憲英（東京電機大学名誉教授）、金箱温春（金箱構造設計事務所）、川口健一（東京大学）、河端昌也（横浜国立大学）、斎藤公男（日本大学名誉教授）、佐々木睦朗（佐々木睦朗構設計画研究所）、竹内徹（東京工業大学）、満田衛資（京都工芸繊維大学）、三原悠子（Graph Studio）、宮里直也（日本大学）、山田憲明（山田憲明構造設計事務所）	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2022 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/b-a00/bj00-12/bj50-12.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/b-a00/bj00-12/bj50-12.html</a>

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物	無
講習会	無
催し物	無
大会研究集会	1. 構造部門（シェル・空間構造）PD「空間構造ヘリテージの継承に向けて -保存・保全の課題と現状-」 <span style="float: right;">参加者数 145 名</span> 『同名資料』-
対外的意見表明・パブリックコメント等	無
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>昨年度に引き続き、「日本の構造デザインガイドブック」の作成作業を進めた。4 月には全ての原稿が出そろい、運営委員会査読とその対応も 12 月中に終了した。2023 年 3 月には構造本委員会査読の結果が戻ってくる予定である。2023 年度夏頃の刊行に向けておおむね順調に作業は進行している。</p> <p>また、9 月の大会では PD「空間構造ヘリテージの継承に向けて -保存・保全の課題と現状-」を当委員会担当で開催し、多面的な話題提供と活発な議論が行われた。年度当初の目標は十分に達成できたと考えている。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>以前は委員会活動の一環として、優れた建築構造作品を見学する現地視察を行っていたが、今年度は実施することが出来なかった。来年度は状況を見ながら極力、実施する方向で検討を進めている。</p>